



れんけいと支援



富山市今泉北部町2-1 / Tel: 076 (422) 1112 (代) <http://www.tch.toyama.toyama.jp> / 発行日 2012年12月

地域の医療・保健・介護・福祉の方とともに、皆様の健康をお守りします



糖尿病の病診連携

内分泌代謝内科部長 清水 暁子

今日、日本全体で糖尿病という病気は、まさに、「激増」していると言えます。そんななか、糖尿病では、「病診連携」という方法で、たくさんの患者さんによりよい医療を提供していこうというネットワーク作りが活発に行われています。意外と知られていないかもしれませんが、医療施設（病院や診療所）にはそれぞれに特徴を持った使命が与えられています。「かかりつけ医」・「家庭医（ホームドクター）」の先生方は地域住民の健康管理を担当しておられ、軽い症状の患者さんに対応して下さいます。これを一次医療機関と呼んでいます。そして当院が属する二次医療機関とは、一次医療機関で扱えないような病気や、手術が必要な患者さんに対応する市中病院などの病院のことです。

二次医療機関での、糖尿病に関する役割は、インスリン導入を含めて最適な治療方法を決定する、生活習慣改善などの指導を受ける、糖尿病食を実際に食べて血糖の改善を実感する、合併症の評価を行う、または周術期（手術前後の期間）の血糖値の管理をする、などが挙げられます。そして、治療方針を決定し、自己管理方法を勉強していただいたのちに、病院（二次医療機関での診療）は「卒業」することが可能になります。糖尿病は、「もう何をどれだけ食べても血糖値が絶対に上がらない」という、完全な治癒はできない病気ですが、「よい血糖コントロールを継続して糖尿病合併症を起こさない」のを目指すことはできる病気です。このため、病院を「卒業」された患者さんは、普段は診療所に通院し、年1回は病院で診察を受けるという方法（これを「病診連携」と呼んでいます）で、療養を継続することになります。

糖尿病は特に患者数が多いため、病院と診療所がチームになってより多くの患者さんに必要な治療を効率的に行い、糖尿病合併症の進行を地域全体で抑えるという「病診連携」を、日本医師会、日本糖尿病協会、日本糖尿病学会が協力し合って推進しています。当院や県立中央病院でも、糖尿病連携手帳や糖尿病医療連携カードを利用しています。患者さんにとって2人（複数）の主治医がいることになりメリットの多い、診療所との病診連携を、これからも推進していきたいと考えています。

Contents

| | |
|---|-----|
| 糖尿病の病診連携..... | 1 |
| 研修・講演・勉強会のご案内..... | 2,3 |
| ふれあい地域医療センターからのお知らせ ... | 3 |
| 12月の地域連携・開放型病床症例検討会報告 ... | 3 |
| 診療所・病院・施設訪問..... | 4 |
| 産婦人科 パパ・ママのための集団指導と 相談コーナーのご案内 | 5 |
| 有害事象モニタリングセミナー開催報告 ... | 5 |
| 平成24年度 地域医療連携担当者交流会・ 講演会を開催して | 6 |
| 睦美会講演会 ものがたり診療所 佐藤先生をお迎えして | 7 |
| 富山市民病院 地域連携開放型病床講演会・ 懇親会のご案内 | 7 |
| 地域医療支援病院委員会を開催いたしました... | 7 |
| 医師不在のお知らせ..... | 7 |
| 外来部門の紹介 | 8 |
| 編集後記..... | 8 |

1. 地域連携・開放型病床症例検討会



日時：平成25年1月8日（火）19：00～20：15 場所：当院3階 講堂

ミニレクチャー：「器質性精神障害」

精神科 伊東 徹

器質性精神障害とは、アルツハイマー型認知症、脳血管障害、脳外傷など脳そのものの器質的病変が原因で精神障害が出現する一次性的なこともあれば、甲状腺機能低下症によるうつ状態のように、多数の臓器や器官系統の一部として脳が障害される全身性の疾患のように、二次性（症状性）のこともある。広義にはアルコールや薬物による精神障害も含まれる。

当院のような救急病院では器質性精神障害の症例を経験することが多いが、精神症状の出現が急激かつ激しい場合、

器質因の検索や治療を十分に行うことができないまま精神科に紹介となるケースも多い。

今回は、認知症状態を疑われ当科を紹介され、多発性脳梗塞による運動性失語であった症例、重症間質性肺炎のためステロイドが使用され躁状態となり、紹介入院となった症例、意識障害にて来院し、アルコール離脱せん妄を疑うも、マルキアファーバ・ピヤマ病という神経変性疾患であった症例、脱法ハーブの使用により幻覚妄想状態を呈した症例などを報告し、それぞれに考察を加える。

症例検討

1) 『急性発症したネフローゼ症候群の1例』

（紹介医）大沢野クリニック 安達 康子 先生 腎臓内科 宮川 太郎

2) 『ギンナン中毒の1例』

小児科 舟坂 雅大、柴田 幸、金田 尚

平成25年2月の地域連携・開放型病床症例検討会中止のお知らせ

病院機能評価受審のため2月12日の開催は中止いたします。

なお、3月の開催は、3月12日（火）に予定しておりますので、よろしく願いいたします。多数のご参加をお待ちしております。

予告

日時：平成25年3月12日（火）19：00～20：15 場所：当院3階 講堂

ミニレクチャー：産婦人科

症例検討 消化器内科・脳神経外科の2例を予定しています。

2. 内科CPC



日時：1月15日（火）17：30～

場所：医局カンファレンス室

3. 緩和医療委員会 学習会



日時：1月8日（火）18：00～19：00

場所：集団指導室

テーマ「緩和ケアにおける地域連携」

講師 緩和ケア内科医師 船木 康二郎

4. 乳腺術後症例検討会



日時：1月15日（火）16：00～

場所：病理検査室

対象：医師、臨床検査技師、放射線技師、他

* 毎月、2～3症例の手術症例検討をおこなって、エコー・細胞診・病理組織・マンモグラフィなどより深く検討していく方針です。

* 日時が変更になる場合がありますので、参加希望の方は事前にご連絡ください。

5. 褥瘡対策学習会



日時：1月25日（金）17：30～

場所：集団指導室

テーマ「褥瘡予防防具とポジショニング」

講師 看護師 大島 倫子

6. NST学習会



日時：1月28日（月）18：00～19：00

場所：講堂

テーマ「慢性閉塞性肺疾患（COPD）と栄養管理について」

講師 呼吸器内科医師 山本 宏樹

7. 糖尿病研究会定例学習会



日時：1月31日（木）17：30～

場所：集団指導室

テーマ「糖尿病と皮膚感染症」

講師 皮膚科医師 野村 佳弘

8 . 看護研修

《看護助手研修》

日時：1月25日（金）

第1回14：00～15：00

第2回15：00～16：00

2回とも同じ内容で行います。

場所：講堂

テーマ「看護補助業務における医療安全と感染防止」

講師 医療安全管理室看護師 村中 弘志
感染管理認定看護師 安田 恵



《衛星研修S - QUE Eナース》

日時：1月9日（水）17：40～18：50

場所：講堂

テーマ「嚥下アセスメント方法を知る」

日時：1月23日（水）17：40～18：50

場所：講堂

テーマ「がん看護におけるリンパ浮腫ケア」

研修の横に対象となる職種マークをつけました。
お気軽にお越し下さい。



医師



看護師
保健師



介護支援
専門員



リハビリ



ケアに関わる
スタッフ

ふれあい地域医療センターからのお知らせ

先月号にも掲載いたしましたが、年末年始のふれあい地域医療センターの業務については以下のとおりです。診察や検査の予約受付に対応いたしますのでよろしくお願いたします。

- ・ 12月25日（火） 通常どおり
- ・ 12月26日（水） 通常どおり
- ・ 12月27日（木） 通常どおり
- ・ 12月28日（金） 通常どおり
- ・ 12月29日（土）～1月3日（木） 休み
- ・ 1月 4日（金） 通常どおり

なお、救急患者さんに関しては、
救急センターへご連絡ください。



《連載企画》 診療所・病院・施設訪問 93 ナラティブホーム

今回は「ナラティブホーム」を訪問させていただきました。

| | |
|-------------|-----------------------------|
| 名 称 | 医療法人社団 ナラティブホーム |
| 住 所 | 砺波市山王町2番12号 |
| 医 師 | 佐藤 伸彦 先生 八木 清貴 先生 |
| 標 榜 科 | 内科（緩和ケア・総合診療・神経内科） |
| 診 察 日 ・ 時 間 | 月～金曜日 9:00～12:30 午後は訪問診療・往診 |
| 施 設 区 分 | 機能強化型在宅療養支援診療所 |

訪問記



佐藤 伸彦先生



ちゅーりっぷの郷前景



冬の到来を感じさせる冷たい小雨が降る中、砺波市にあるナラティブホームを訪問させていただきました。施設内ですれ違う職員の皆様方に元気よく挨拶していただき、温かい雰囲気緊張がほぐれたところで、佐藤先生、甲田副理事長よりナラティブホームについての説明をお聞きしました。地域優良賃貸住宅ちゅーりっぷの郷の1F部分に「ものがたり診療所・訪問看護・居宅介護支援センター・ホームヘルプステーション」があり、隣接してがんに限らない在宅ホスピスをキーワードにした集合住宅「ものがたりの郷」があります。「ものがたりの郷」は、佐藤先生が高齢者医療の実践の中から辿りつかれた、制約の多い病院でもなければ施設でもない、家庭にいるようにライフスタイルを大切にしながら必要な医療、看護、介護を受けられるように考えられた集合住宅です。それぞれの人生の“ものがたり”を大切にす医療、という考えに賛同する多職種スタッフが集まり、現在の形になっているとのことでしたが、ここに至るまでの様々なご苦労もあったとのことお話を伺うことができました。

ナラティブホームでは厚生労働省平成24年度在宅療養拠点事業を実施されており、ものがたり在宅塾市民編・多職種連携編・セミナー編を通して、一般市民や医療・介護スタッフへの啓発活動も盛んにおこなっているとのこと。お話を伺いながら、在宅医療を地域全体で考える取り組みは、今後訪れる今以上の高齢社会を乗り越える大きな原動力となるであろうと感じました。また、ものがたり診療所は南砺市民病院との連携により、機能強化型在宅療養支援診療所として現在、約100～120名の訪問診療や往診患者に対応されており、ものがたりの郷と自宅を合わせた在宅看取り数は平成23年度58名となっています。これは平成23年度の砺波市の死亡者数498名の11.6%に当たり、ナラティブホームが砺波市の在宅医療の一翼を担っていることを示唆しています。

今回の訪問で頭に浮かんだのは、上杉鷹山の『為せば成る 為さねば成らぬ何事も 成らぬは人の為さぬなりけり』という言葉でした。急激な高齢社会における問題に対して、私たち医療者が出来る事から、諦めずに取り組むことが必要であると感じました。帰りの車では、訪問に訪れたそれぞれが自分の果たすべき役割を熱く語り合いながら、寒さも吹き飛ばす勢いで帰路につきました。



パパ・ママのための集団指導と 相談コーナーのご案内

産婦人科では、患者さんや家族の方を対象に集団指導・相談コーナーを下記のように開催しております。ご利用される方がおられましたら産婦人科外来までお問合せください。

* パパとママのためのマタニティクラス

開催日：第2水曜日 9：30～11：30

対象：妊娠26週以降の方とその夫

開催場所：3階集団指導室

担当者：産婦人科医師 助産師

内容：早産の予防・妊娠中の栄養・妊娠中の過ごし方・出産準備用品について・産婦人科病棟の見学などを行っています。

* パパとママのためのお産準備クラス

開催日：第4水曜日 9：30～11：30

対象：妊娠26週以降の方とその夫

開催場所：3階集団指導室

担当者：助産師

内容：分娩開始徴候と入院の時期・陣痛室での過ごし方・呼吸法・夫立ち会い分娩についてなどを行っています。



* 相談コーナー

開催日：毎週水曜日 13：30～15：30

相談コーナーは完全予約制で行っております。

対象：当院産婦人科で分娩された方

開催場所：西病棟3階

担当者：助産師

内容：母乳育児支援。ご希望の方には乳房マッサージを行っています。母親の心身の異常や不安に思うこと、赤ちゃんの発育状態などについての相談も実施しています。



申し込み・お問合せは、産婦人科外来までご連絡ください。TEL076-422-1112（代表）

有害事象モニタリングセミナー開催報告

薬剤部 山田 麻利名

地域の薬局薬剤師と病院薬剤師の情報共有・連携強化を図る目的で、11月27日に有害事象モニタリングセミナーを開催いたしました。第6回目となる今回は、喘息治療に用いられる吸入ステロイド薬をテーマとし、院外の調剤薬局から15名の薬剤師の参加をいただきました。

まず初めに、当院薬剤部医薬品情報担当の舟瀬薬剤師より、吸入指導について、指導のタイミングや時間、指導に使う資材、患者さんの服薬継続のための工夫や困っていることなどについての事前アンケートの集計結果を報告いたしました。

続いて、当院呼吸器内科の石浦医師より、「気管支喘息の診断と治療、吸入ステロイド薬の理論と使い分け」と題し講演がありました。

喘息死を減らすためには、正しい方法で継続して吸入薬を使用していただくことが最も重要となりますが、操作の困難さもあり、誤った使い方により十分な薬効が発揮されていない場合や、服薬が忘れがちになる患者さんがいるのも事実であります。今回のセミナーでは調剤薬局の薬剤師より、吸入が正しく行われているか客観的に確認する検査はないかとの質問もあり、活発な議論がなされました。

病院や調剤薬局の薬剤師は、薬の専門家としてよりよい薬物治療が継続されるよう、これからも相互理解を深めるための取り組みを継続していきたいと考えています。



平成24年度 地域医療連携 担当者交流会・講演会を開催して

11月2日(金)、平成24年度地域医療連携担当者交流会を開催いたしました。院外より看護師、介護専門支援員、相談員など合わせて17名、院内からは退院支援担当の看護師、医療ソーシャルワーカー、栄養士など、計41名の参加がありました。参加者が5つのグループに分かれ「高齢者の栄養問題～それぞれの立場から～」をテーマとして、経口摂取が難しくなっている親に、胃ろうか中心静脈栄養かの選択を迫られている子の事例を通して、自分の家族であればどうするか、病院・施設スタッフの立場としてはどう思うかを話し合いました。担当者交流会の後



に講演をしていただく会田薫子先生にもグループワークの中に入らせていただきましたが、病院、施設、在宅サービスなどの種類を問わず、全ての参加者にとって、身近であり様々な悩みを感じている話題であったようで、どのグループでもとても活発な意見交換がおこなわれました。

グループワークのあと、それぞれのグループからの発表では、「自分自身であれば何もしてほしくないと思うが、親なら長生きしてほしいと思う」「患者本人の意見を尊重したいが、意思表示ができない場合は難しい」「最近は何もしないで欲しいという家族も多く、医師の考え方も変わってきている」などの意見がありました。

会田先生からは、“これからは医療者ではなく患者や家族が主体となって選択していく時代である。簡単に結果の出る問題ではないが、医師、看護師、ソーシャルワーカー、栄養士など多職種がチームとなって、本人や家族の希望を聞きながら一緒に悩むプロセスこそが大切であるのではないか”との講評をいただきました。

担当者交流会の後、引き続き「高齢者ケアと人工的水分・栄養補給法について考える」と題して講演会を開催し、講師として東京大学大学院人文社会学系研究科 死生学・応用倫理センター上廣講座 特任准教授 会田 薫子先生にご講演いただきました。院内外からさらに医師、看護師、リハビリスタッフ、介護支援専門員等136名の参加があり、高齢者の栄養問題に対する関心の高さを感じました。

人工的水分・栄養補給法をめぐる近年の報道や家族の思い、医療者側のジレンマ、ガイドラインなどたくさん資料を提示していただき、高齢者の栄養選択や延命治療について社会的認識が大きく変わってきていること、法的問題や倫理的問題を回避するためにも、本人・家族とそれを支えるスタッフが、本人にとって何が最善なのか、何ができるのかを話し合い、一緒に考えていく過程を大切にしていける必要があると話されました。



講演終了後も会場からは質問や意見が相次ぎ、多くのスタッフが患者さんの看取り、延命治療について悩みを持っているのだと感じました。患者さんが本人らしい人生の集大成を迎えられるように、院内のチームアプローチはもちろん、地域との連携を大切にしながら支援をしていきたいと思いました。

講演終了後も会場からは質問や意見が相次ぎ、多くのスタッフが患者さんの看取り、延命治療について悩みを持っているのだと感じました。患者さんが本人らしい人生の集大成を迎えられるように、院内のチームアプローチはもちろん、地域との連携を大切にしながら支援をしていきたいと思いました。

ふれあい地域医療センター 仙石 佳代

陸美会講演会 ものがたり診療所 佐藤先生をお迎えして

11月8日(木)陸美会の看護講演では、ものがたり診療所の佐藤伸彦先生をお招きしました。地域医療機関と院内医師、看護師、コメディカルを合わせて161名の参加がありました。

佐藤先生は「どこで最期を迎えるのか選べる時代に - チームナラティブの取り組み - 」と題し、人それぞれの人生があり病气や死をどのように捉えるのか、人間として与えられた命をどう生きていきたいか、高齢化社会や家族形態の変化から今後の傾向をふまえて話されました。また、患者さんの人生の中で私たち医療者の関わりは、ページの中の「短行」を埋めているに過ぎない。そして、その人に関心を寄せその人がその人らしく生活できるように、「たべのこしたものはないか」「いいのこしたことはないか」「やりのこしたことはないか」の3つのことを聞いて、看取る主体は私たち医療者ではなく、家族であり、大切な「人」として家族とともに援助し支えることが私たちの役割であると癒しの声で話されました。一人ひとりの映像に映し出される穏やかな表情からは、「今のいのちがあるから生きている」というメッセージが伝わりました。会場内は、さまざまな思いが重なり涙にあふれていました。

講演では、「ゆっくり関わっていくことの大切さ」「出会った時間(とき)の大切さ」「肩の力を抜いて患者さんに関わること」「あなたの胸の中に亡くなった人が生き続ける」など多くのことを学びました。

これからも病气と向き合う患者さんを、家族の大切な「人」として家族と共に支えていきたいと思いました。



平成24年度

富山市民病院 地域連携開放型病床講演会・懇親会のご案内

先月号にお知らせしたとおり、下記の予定で地域医療連携開放型病床講演会・懇親会を開催いたします。登録医の先生方と当院の医師や看護師、メディカルスタッフとの意見交換を身近に行える一年に一度の機会として、職員一同楽しみにしております。登録医の先生方には別途ご案内いたしますが、是非お越しいただきますよう、お願い申し上げます。

日 時：平成25年3月8日(金) 19:30~

場 所：富山第一ホテル

内 容： 講演会 懇親会

地域医療支援病院委員会を開催いたしました

地域医療支援病院委員会は、当院が地域の医療機関からの要請に適切に対応し、地域医療の確保に必要な支援を行うことを目的に運営しております。

去る11月14日に、本年度3回目の委員会を開催いたしました。

会議では、事務局より今年度の紹介数・逆紹介数、療養相談件数、月別研修参加人数などの業務実績報告いたしました。また、本年7月1日から実施しているマイクロアレイ血液検査について説明いたしました。委員の方から多くのご意見をいただき、地域医療の発展に向けた対策について理解を深めました。

医師不在のお知らせ

外来担当日の休診のみ掲載

1月分

| 科 名 | 不 在 日 | 医 師 名 | 科 名 | 不 在 日 | 医 師 名 |
|-----|-------|-------|-------------|-------|-------|
| 内 科 | 18日 | 林 | 内 科 | 11日 | 清 水 |
| | 21日 | 石 浦 | | 25日 | 水 野 |
| | 15日 | 蓑 内 | 外 科 | 31日 | 泉 |
| | 28日 | 寺 崎 靖 | 歯 科 口 腔 外 科 | 4 日 | 寺 島 |
| | 30日 | 村 本 | 眼 科 | 25日 | 山 田 |

その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。

外来部門

の紹介



今月は 外来治療室

外来治療室は、日常生活を送りながら通院治療をご希望される患者さんのため、従来入院で行われてきた化学療法の安全性と奏功性を維持しつつより安全に快適かつ専門性の高い抗癌剤治療を目的として平成17年に開設されました。また新規抗体治療薬（レミケードなど）の治療も行っています。スタッフは、がん薬物療法専門医師1名、がん薬物療法認定薬剤師1名、看護師4名です。

来年度には拡張予定ですが、現在は専用リクライニングシート3床とベッド6床を常備しており、各々にテレビを配置し、部屋には音楽を流すなどリラックスした環境で治療を受けることができるように配慮しています。花や置物などで、季節を感じられるよう暖かい雰囲気造りを心がけています。

安全性に関しては、レジメンの登録、がん薬物療法認定薬剤師による化学療法注射箋の事前チェック、看護師による再度チェック、点滴治療中の細部にわたる管理、パンフレットを活用した患者指導、副作用に対するマニュアルの作成などの予防対策を行っています。その他、ウィッグ、帽子、乳がん術後の下着の相談に応じています。また、薬剤師も継続的に患者さんに関わり、抗がん剤以外の薬物についても相談にのっています。

化学療法は心身ともにつらい治療です。私たちスタッフ一同は、患者さんが少しでも安心して前向きに治療を受けられQOLが保てるように支援していきたいと思っています。



編集後記

看護研修センターで訪問看護師の方々に精神科の訪問について話す機会がありました。その中で、訪問看護を行うにあたって、患者さんのことやその家族のこと等、色々な苦労話しが出ていました。

病院の中での看護と訪問の際の対応の仕方の違い、責任の重さ等、違った意味での緊張感があり、それがまた自分たちのやりがいにもなっていることなどを伺いました。頑張っている姿は、患者さんにとってもその家族の方にとっても勇気付けられていることと思います。

自分自身もACT（精神科訪問看護）に携わっているものとして、患者さんと地域に寄り添った看護を展開していきたいと考えています。

精神科外来師長 碓井 良弘



病院ボランティア
篠崎 佳子

「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1114 FAX 076 (422) 1154

ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/>
がん・なんでも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp